

情 報

い取組への創設以来の努力の一方、ユニークな歯科臨床実習のありかたや、学科内における研究面の充実など、内容面では全国に先駆けて実施してきた。これは歯科衛生士の全国規模の学会創設運動も含めて、本学の特徴である。このような歯科衛生士本来の業務の改善を基本とした質的変換への努力は、必ず実を結ぶに違いないことを確信している。目先だけでないロングスパンの視点をもった将来計画をたててゆくことこそ大学生き残りの大原則であると考えからである。

新潟県中越大震災 歯科医療支援チーム参加報告

丸山 満 歯科技工士学科

平成16年10月23日17時56分、新潟県中越地方を震源として、震度6強の揺れが県内を襲いました。その震災の翌週に、新潟県歯科技工士会から本学に、中越地震歯科医療支援チームボランティアの支援要請があり、本学から、私が10月29日、佐々木助手が11月1日に被災地の歯科医療支援チームに参加しました。

私は、一生に一度の経験であり、歯科技工士として是非に参加したい思いから行かせていただきました。しかし、被災地でどれ程役立てるだろうかという不安と、震災に遭われた人々に何かしらの援助ができるという期待が交錯しました。

ボランティア当日は、活動開始2日目にあたり、新潟県歯科医師会役員1名、新潟大学の歯科医師2名、日本歯科大学と明倫短期大学の歯科衛生士各1名、技工士1名、事務員1名の計7名でした。

午前7時に新潟県歯科医師会館を車2台に分乗して出発しました。移動経路は関越道でしたが、長岡から先の関東方面は緊急車両以外が通行止め状態で、小千谷インターに近づくに従い、道路の凹凸も大きく、側塀も傾きがみられ、それらは目に余る光景でした。震災直後から毎日、テレビや新聞で話題性のある被災地の情報は知ることができました。しかし、被災地の状況は見た目以上に激しく、古い建築物の倒壊、建物の安全性の確認を示す赤、黄、緑の表示が見受けられ、家屋の前で炊き出しをしている方々もあり、それは、家財道具類の倒壊による、住居内の生活が困難である、家屋内は危険であることを示す光景でした。それは外から見る限りでは到底計り知ることができませんでした。

復興支援の緊急車両が多いため、通常よりも移動時

間はかかりましたが、午前9時前には支援活動の拠点となる小千谷保健センターに到着しました。センター内の一角に仮設歯科診療所が設けられ、現地で活動されている先生方への挨拶と、前日からの引き継ぎの後、早速、歯科技工コーナーの確認にあたりました。

まず、スムーズな医療活動を行うために、診療室における技工士の関わり、被災地であること、被災された方々の現在の状況から考えてみました。現地は未だに電気以外のライフラインが寸断されていることから、口腔内の衛生管理がままならない状況だということとは想像できました。しかし、限られた設備や厳しい条件下での治療は応急的処置が予想されましたが、地震発生が夕食の時間帯であったため、義歯の紛失が免れたのは不幸中の幸いでした。それらのことから、主な治療内容として、主に義歯調整、研磨等の即時対応可能な技工作業が予測できました。歯科技工士会側として、ハンドピース2台、大きめのバー、ポイントの切削器具、リベース材、常温重合レジンが準備されていました。前日の確認では、機器、材料に関して「持参する物はない」とのことでしたが、念のため、プライヤー類、レジン築盛用筆、エバンス等の日常使い慣れた器具類は持参しました。

歯科技工士は日常業務として、患者の近くで業務を遂行することは、ほとんど無いと思います。しかし、今回のように限られた状況、設備、慣れないスタッフの中で円滑に活動するためには、患者の対応と適切な誘導、他のスタッフへの情報伝達が不可欠であり、常に周囲とのコミュニケーションの必要性があることを強く感じました。私は患者が治療椅子に座り、治療開始と同時に歯科医師、衛生士と患者間の会話に耳を傾け、まず主訴と治療内容の情報の収集をしました。そこから得た情報を元に、予測される技工操作の準備を心がけました。

当日に対応した内容は、義歯調整後の研磨が3例、テンポラリークラウンの製作が1例でした。実際に作業をして気づいたことは、切削器具の種類不足により確実な作業ができず、数量不足もあり、切削器具をアルコールガーゼの清拭にて対応して使い回しを余儀なくされたことです。また、補綴物の研磨後の清掃も水洗ができないために、アルコールガーゼの清拭で対応せざるを得ない状況でした。

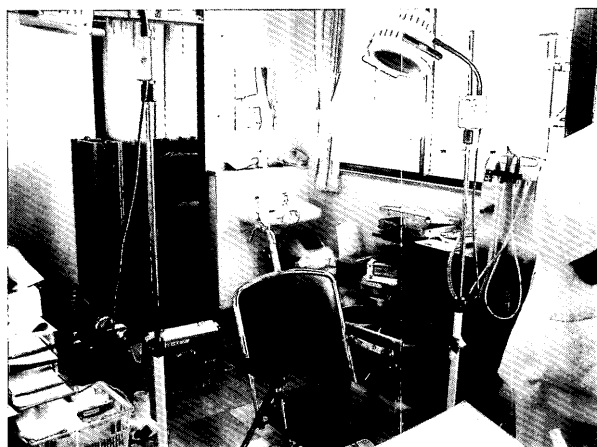
仮設歯科診療所としては、14名の患者さんに対応し、午後3時半には活動を終え帰路につきました。歯科医療チームに参加して様々な事を学び、貴重な経験をさせていただいたことに感謝いたします。

情 報

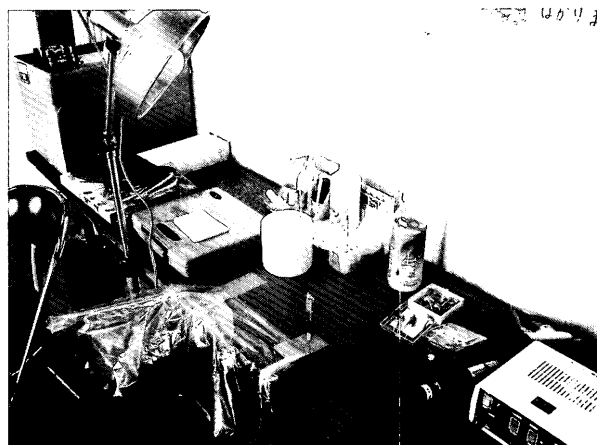
また、この度の経験から歯科技工士も、チーム医療の一員として医療活動に参加するためには、消毒、滅菌に関する知識と、そのための教育が必要であると強く感じたことも加えさせていただきます。



震災により全壊した家屋



治療椅子とその周囲



仮設の歯科技工のスペース

新潟県中越大震災歯科医療救護活動報告 —被災地に想いをよせて—

本間 和代 助教授 歯科衛生士学科

平成16年10月23日（土）午後5時56分地震発生、その時、我々は・・・

本学16年度第2回公開講座を終えて、終業準備をしていたその時、6号館の建物が、過去に経験のない音をたてて激しく揺れた。突然の異変にうろたえていた矢先、また、2度、3度の大きな揺れにみまわれ危険を感じて外に出たのは5分位経過してからである。ラジオを通じて、中越地区に大地震が発生したことを知ることとなった。以後、テレビ、ラジオ、新聞等のあらゆるマスコミは、その悲惨な現状を伝えてきた。

地震発生から2日後、我々新潟県歯科医師会に設置された災害対策本部から、歯科衛生士派遣の要請を受けた。下河辺学長の「万難を排して協力するように」との指示を受けて、その夜から直ちに派遣する歯科衛生士の調整に入ったのである。

10月28日～11月21日までの25日間に亘って続けられた救護活動実績（新潟県歯科医師会対策本部まとめ）および本学教職員の派遣状況を表1に示す。これより、

表1. 新潟県中越大震災歯科救護活動実績
(平成16年10月28日～11月21日)

動員数：歯科医師95人 歯科衛生士132人 歯科技工士17人					
実施地区	小千谷市		川口町	明倫短期大学派遣	
月日（曜）	応急処置 患者数	相談・指導 等受診者数	相談・指導 等受診者数	歯科 衛生士	歯科 技工士
10月28日(木)	4 (1)	65 (5)	—		
10月29日(金)	13 (1)	82 (7)	—	1	1
10月30日(土)	26 (1)	78 (8)	—		
10月31日(日)	10 (1)	72 (3)	—	1*	
11月01日(月)	9 (1)	38 (1)	—	1*	1
11月02日(火)	8 (1)	55 (4)	—	2	
11月03日(水)	6 (1)	22 (2)	—		
11月04日(木)	7 (1)	38 (1)	—	1*	
11月05日(金)	13 (2)	31 (1)	—	1*	
11月06日(土)	7 (2)	46 (4)	—		
11月07日(日)	8 (2)	28 (6)	6 (1)	1	
11月08日(月)	8 (2)	3 (1)	27 (4)		
11月09日(火)	3 (2)	26 (4)	22 (3)	2 (1*)	
11月10日(水)	3 (2)	9 (2)	18 (2)	1*	
11月11日(木)	4 (2)	56 (1)	41 (5)	1*	
11月12日(金)	0 (2)	29 (3)	12 (2)	1	
11月13日(土)	4 (2)	10 (1)	44 (2)		
11月14日(日)	—	9 (2)	32 (2)	1	
11月15日(月)	—	37 (2)	33 (6)		
11月16日(火)	—	6 (2)	22 (4)		
11月17日(水)	—	7 (2)	20 (2)	1	
11月18日(木)	—	8 (3)	48 (2)	1*	
11月19日(金)	—	19 (2)	18 (2)		
11月20日(土)	—	12 (2)	50 (3)	1	
11月21日(日)	—	21 (1)	26 (2)		
合 計	133 (26)	807 (73)	419 (42)	17	2

() 内：救護活動を行った箇所数 新潟県歯科医師会まとめ
* 附属歯科診療所所属